

次代の中国経済を牽引するサービス産業

急速な経済成長に伴い個人所得が増加し、ライフスタイルが変化してきた中国。サービス産業の拡大が見込まれる中、引越しスタイルにも変化がみられてきました。これまで中国では、単純に家財道具を運ぶだけというシンプルなサービスが一般的でした。ところが最近では、専門業者による高品質なサービスへのニーズが高まっています。

このような動きから、日本国内大手の運輸会社である日本通運は、今年の11月より中国に現地法人を設立、中国国内の引越し事業に本格参入をします。同社は長年日本国内外で培ってきた引越しの実績とノウハウを武器に、下見から見積り、梱包、運搬、開梱、設置と一貫した日本式のサービスを提供する予定です。

引越しに限らず、中国では高品質なサービスを求める傾向が年々強くなっており、サービス産業を含む第三次産業のGDPは、毎年10~20%程度増加しています。一方で第三次産業がGDP全体に占める割合は約4割に留まっています。先進国の平均が6~7割程度である事を考えると、更なる拡大が期待されます。すでに中国政府は第12次五カ年計画においてGDPに占めるサービス産業の比率を引き上げることなどを目標に、今後、サービス産業の育成に積極的に取り組む方針を示しています。

これまで中国は世界の工場として製造業を中心に成長してきましたが、今後は内需の拡大によって発達したサービス産業が新たな担い手となって経済成長を牽引していくかも知れません。

